

# 30 年前と比較した神事の存廃とその要因 —茨城県を対象とした俯瞰的視点から—

大平 航己<sup>1</sup>・石橋 澄子<sup>2</sup>・谷口 守<sup>3</sup>

<sup>1</sup>学生非会員 筑波大学大学院 システム情報工学研究群 (〒305-8573 茨城県つくば市天王台1-1-1)

E-mail: s2120419@s.tsukuba.ac.jp

<sup>2</sup>学生非会員 筑波大学 理工学群 (〒305-8573 茨城県つくば市天王台1-1-1)

E-mail: s1811203@s.tsukuba.ac.jp

<sup>3</sup>正会員 筑波大学教授 システム情報系 (〒305-8573 茨城県つくば市天王台1-1-1)

E-mail: mamoru@sk.tsukuba.ac.jp.

少子高齢化や大都市圏への人口集中といった社会状況の変化を背景に、神事の継続が困難となっている地域は少なくない。さらに、近年の COVID-19 流行は今後の継続に大きな影響を与えるだろう。神事にはコミュニティの活性化や観光、商業振興の材料など様々な面において役割を果たすといわれており、神事の保存・活用に向けて文化庁においても経済的及び制度的支援が進められている。そこで、本研究では茨城県内で 30 年前に行われていた神事を対象に文献等調査から、継承・消滅の実態を把握したうえでその要因を俯瞰的に分析した。その結果、神社周辺の人口減少は神事の継承・消滅に影響を及ぼしていないことが分かった。また、神事の種類、地域特性や神社の規模が継承・消滅に影響していることが示された。

**Key Words:** shinto ritual, shrine, inheritance and extinction, depopulation, Ibaraki

## 1. はじめに

少子高齢化や大都市圏への人口集中といった社会状況の変化を背景に、祭りの継続が困難となっている地域は少なくない。実際に 2016 年の共同通信社による調査では、都道府県が無形民俗文化財に指定した伝統行事のうち、20 県で計 60 件の休廃止が確認されている<sup>注1)</sup>。特に過疎地域において問題視されており、神社本庁は 2016 年に過疎地域神社活性化推進委員会を発足し、神事の継続が危惧されている地域において地域と神社の活性化を図っている<sup>注2)</sup>。加えて、近年の COVID-19 流行により、感染拡大防止の観点から多くの祭りが中止を余儀なくされており、今後の開催に対する不安も高まっている<sup>注3)</sup>。

祭りの中でも、古くから地域と密接な関わりを持つ神社の行事である神事に着目すると、神事にはコミュニティの活性化や観光、商業振興の材料など様々な面において役割を果たすことが示されている<sup>注4)</sup>。さらに年々、頻発化・甚大化する災害に対しても、災害後周期的に繰り返されてきた神事を再開することは災害前の日常を作り出し、被災者にとって大きな意義を持つことが報告さ

れており<sup>注5)</sup>、多様な面から、神事は今後も継承していくべき貴重な資産であるといえるだろう。

これらのことを踏まえると、COVID-19 流行による影響や深刻化が予測される人口減少社会において、今後さらに神事の継承が難しくなる恐れがある中、再度これまでの継承及び消滅事例を見直し、その要因について整理しておくことが必要であると考えられる。

また、COVID-19 流行により神事を含めた無形の文化財の継承に影響が生じていることから、無形文化財及び無形民俗文化財の登録制度<sup>注6)</sup>が 2021 年に新設され、加えて文化庁は祭りの支援に 65 億円を計上しており<sup>注7)</sup>、保存に対する意識が一層高まっているといえる。COVID-19 流行以前においても、神事に限らず無形・有形文化財を包括して保存・活用していく動きは見られ、例えば、2018 年より導入された文化財保存活用地域計画の作成が各自治体で現在も進められている<sup>注8)</sup>。

このように、今後、神事の保存・活用に取り組んでいく中で、神事のこれまでの変化を正しく認識したうえで適切な政策を講じることが必要である。

## 2. 本研究の位置づけ

### (1) 本研究における用語の整理

祭りには、村の農耕儀礼や神楽といった伝統的な行事から地方自治体・学校の行事やイベント、商店街の催し物など様々なものが存在する。その中でも本研究では伝統的に継承されてきた行事に着目し、古くから地域と密接な関わりを持つ神社の行事である「神事」を対象とする。文献<sup>註9)</sup>を参考に、「神事」を“神を祀る神社の行事”，「祭り」を“神事に付随する娯楽的要素を含む行事”と定義し、以下を論じる。

### (2) 分析対象地域

本研究では分析対象地域として、茨城県を対象とする。茨城県は首都圏外縁部に位置し県北部は山林が多い一方で、県南部では鉄道沿線上で開発が進んでいる。このように郊外から中山間地域まで幅広い地域特性を有している。

### (3) 既往研究の整理

神事に関する研究は都市計画分野のみでなく、民俗学や社会学、地理学などさまざまな分野で知見が得られている。

特に神事の継承・消滅要因について、石川<sup>2)</sup>は闘牛に着目し、農業の機械化とともに消滅したものの、観光化と担い手の組織化により復活し継承されていることを明らかにしている。卯田ら<sup>3)</sup>は自治体の取り組みとの関係性が継承に重要な役割を果たしていることを示し、熊澤ら<sup>4)</sup>は、祭りの衰退原因を明らかにし、衰退のタイプをまとめている。また、井口<sup>5)</sup>は一度中止された神事の原因を把握するとともに、さらにその後復活した要因について言及している。森田ら<sup>6)</sup>は非居住者の協力により神事が継承されていることを明らかにしている。しかし、いずれも調査対象が神事の種類や過疎地域など地域を限定しており、多数の事例を対象とし俯瞰的な視点から分析を行った研究はみられない。

長期的な視点から多数の事例を対象に実態調査を行った研究として、浜松市内の 300 件以上の祭りを対象に継承状況の調査を実施した杉山ら<sup>7)</sup>の研究が存在するが、データベース化の構築を目的としており、詳細な継承・消滅要因については明らかにされていない。

また、本研究では茨城県を対象としており、茨城県内の祭りに関する著書や報告書も多数存在する。例えば、県内の代表的な祭りや地域の見どころを紹介した著書<sup>註9)</sup>や、茨城県教育委員会が県内に残される祭りを対象に調査した報告書<sup>註10)</sup>がある。しかし、これらにおいても紹介や実態把握のみに留まっており、詳細な分析には至っていない。

### (4) 本研究の内容

以上の背景より、茨城県内で 30 年前に行われていた神事を対象に、継承・消滅の実態を把握したうえでその要因を俯瞰的に分析する。これらを通じて、今後の社会における神事の保存・活用に向けた知見を得ることを目的とする。

本研究では、この目的を達成するために、2.で研究の位置づけを行った後、3.で使用データの解説を行う。次に 4.では 30 年前の神事を対象とした継承・消滅実態把握及び継承・消滅実態と人口との関係を分析する。続いて、5.では神事の継承・消滅実態の判別分析を行い、その要因を明らかにする。最後に、上記の結果を踏まえて 6.で本研究で得られた成果と今後の課題についてまとめる。

なお、本研究では一部の神事を対象にヒアリング調査および神社の現地調査を実施し、調査で得た知見をもとに分析で使用する変数の検討や考察を行った。

### (5) 本研究の特長

- 1) 地域と関わりの深い神事を対象とし、その存廃を長期的・面的な視点から把握するというオリジナリティの高い取り組みに挑戦している。
- 2) 近年、神事の保存・活用に向けた取り組みが進められている中で、その継承・消滅要因を定量化した有用性のある研究である。
- 3) 茨城県神社庁が収集・編集した資料に記載される神事を分析対象とした信頼性の高い研究である。

## 3. 使用するデータ

本研究では、平成元年(1989 年)、茨城県神社庁編集、茨城新聞社発行著書「茨城の神事」<sup>註9)</sup>(図-1)に掲載されている神事を調査対象とする。著書内には、茨城県内の神事 155 事例を対象に、当時の神事の内容が記載されている<sup>註11)</sup>。

本研究では、著書内にて既に消滅した神事として紹介

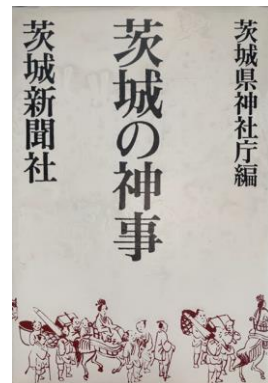


図-1 著書「茨城の神事」<sup>註9)</sup>

表-1 著書に掲載される神事の種類と本研究の分類

著書内分類	本研究における分類
海上神幸 浜降り神事	海・浜で行われる神事
御田植神事	御田植神事
弓神事 神事相撲	競技を伴う神事
筒粥神事 甘酒神事・どぶろく神事 大飯神事 特殊神饌	供え物や料理に特徴のある神事
茅の輪神事 湯立て神事	悪霊防御を目的とする神事
雨乞い神事	雨乞い神事
火祭り	火祭り
田楽 神楽 獅子舞・ささら はやし	民俗芸能が行われる神事
祇園祭	祇園祭
神事と当屋制	当番制による神事
御座替り神事 特色ある祭り <sup>注12)</sup>	その他の神事

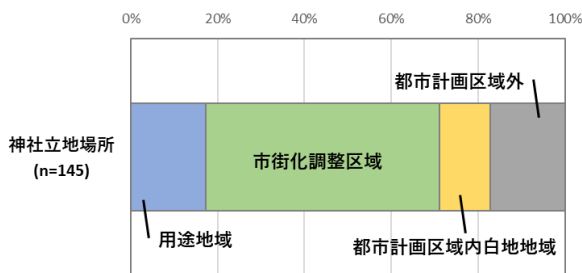


図-2 神事開催神社の立地場所

されている神事を除く 145 事例を調査対象として扱う。対象とする神事は、田楽や神楽といった伝統芸能に関する神事から、茅の輪くぐりなど様々な種類の神事を取り扱っている。本稿では著書内での分類を文献<sup>注10)</sup>を参考に再分類した(表-1)。また、神事が行われる神社の立地場所についても、用途地域内から都市計画区域外まで幅広く存在し、多様な地域特性を有する神事を対象としている(図-2)。

#### 4. 神事の継承・消滅実態把握

##### (1) 神事の継承実態把握

本節では、まず 30 年前の神事が継承されているのか、消滅しているのかについて文献等調査を行い把握する。神事の実態を判断する過程としては、初めに各神社のホームページ(以下、HP と略す)の存在を把握し、神社 HP 内における対象神事の記載有無を調査する。次に、各自治体が運営する HP(移住定住促進サイトや観光協会 HP 等、自治体が運営に関与していることが確認できる HP を含む)より対象神事の記載有無の把握を行う<sup>注13)</sup>。

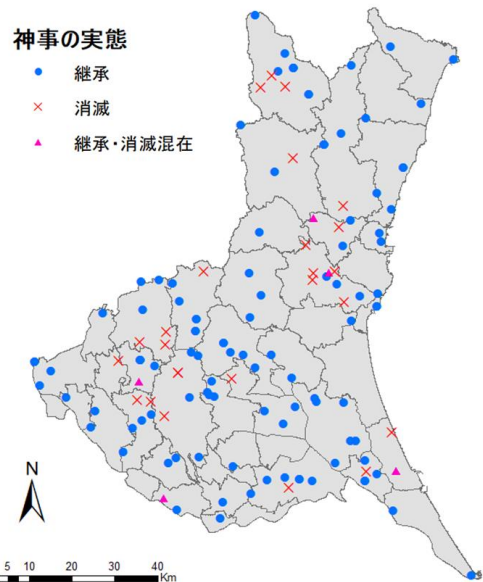


図-3 神事の継承・消滅実態分布

そして最後に、茨城県教育委員会より発行されている文献<sup>注10)</sup>より対象神事が掲載されているか把握を行う。文献<sup>注10)</sup>は 2007~2009 年の 3 年間にわたり県内の全地域において伝承されている伝統的な祭りや行事、1891 事例を調査している。

これらのプロセスより調査した結果、145 事例中 115 事例(79.3%)において HP 及び文献より継承されていることを確認することができた。以下、本研究では確認できた神事を「継承」、確認できなかった神事を「消滅」と定義する。把握した継承実態の分布を図-3 に示す。各神社の立地点については茨城県神社庁 HP<sup>注14)</sup>に示される住所から CSV アドレスマッチングサービス<sup>注15)</sup>を用いて緯度経度を取得し、正確な位置情報を取得できなかった箇所については google map<sup>注16)</sup>にて立地場所を確認し筆者自ら正確な場所へプロットした。なお、神事が開催される神社については現地調査及び google map<sup>注16)</sup>より把握したところすべての神社において存在が確認できた。図-3 より消滅している神事は県全域に点在していることが分かる。また、継承されている神事と消滅した神事が混在している神社がみられ、神事の特長による影響から消滅してしまう神事も存在することが考察できる。

##### (2) 神社周辺の人口変化と継承の関係

1. で前述したように、神社本庁は、特に人口減少が著しい過疎地域での神社及び神事の維持を問題視しており、取り組みが進められている<sup>注2)</sup>。このように人口減少は神事継承へ大きな影響を与える要因であることが考えられる。

そこで、本節では神社周辺の人口変化率を把握し、継承と人口変化との関係性を考察する。神社周辺人口の定

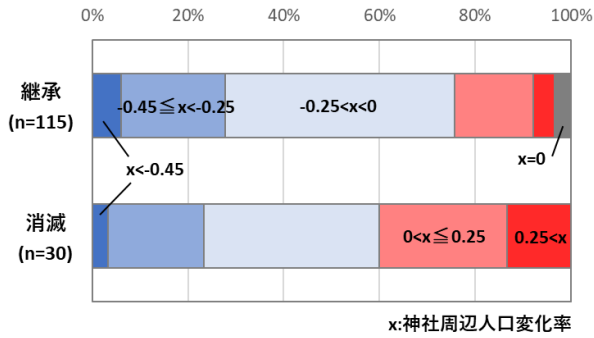


図-4 神社周辺人口変化率と継承との関係

義については、既往研究<sup>9)</sup>を参考に神社から半径500mとし、1995年及び2010年の国勢調査のデータを使用し、GISで人口変化率を算出した。

すると全体の72.4%において神事が開催される神社周辺の人口が減少していることが分かった。そして神社周辺人口変化率と神事の実態との関係について図-4に示す。

その結果、継承している神事の方が人口減少している神事の割合が高いことが明らかとなった。つまり、人口減少以外の要因が神事の消滅に対して強く影響を与えていることが考察できる。そこで人口以外の観点にも着目し、消滅に影響を与える要因を次章で探っていく。

### 5. 神事の継承・消滅要因分析

本章では、神事の継承・消滅要因となることが考えられる外部観察可能な変数として、表-2に示す19の変数を整備した。具体的には、神事の内容(神事の種類)、神社の規模(旧社格<sup>17)</sup>)、神社周辺の地域特性(都市計画区域、人口、交通)に関する変数を収集した。

収集した変数をもとに、神事の継承・消滅実態に対する要因を明らかにするため、判別分析を行う。目的変数としては、4.(1)で明らかにした神事の実態、継承・消滅としている。分析結果を図-5に示す。図-5より以下のことが読み取れる。

- 1) 神事の種類の観点に着目すると、雨乞い神事が消滅に対して有意な影響がみられる。雨乞い神事は、干ばつが続いた際に雨を降らせることを目的に行うため、農業の衰退とともに消滅していったことが考えられる。また、天候によって開催日を決定するため、日程が定まっていないことによって時代の流れとともに継承意識が希薄となったことも要因として考えられる。
- 2) 神事の種類の観点において他に、火祭り及び祇園祭が継承に有意な影響を示しており、火や山車を扱うといった注目を集めるような神事がより継承されやすいことが考察できる。小松<sup>22)</sup>は、神事が時代の

表-2 判別分析に使用する変数

変数名	内容	データの 出典と時点
神事の種類	海・浜で行われる神事ダミー	1:該当 0:該当しない a.
	御田植神事ダミー	
	競技を伴う神事ダミー	
	供え物や料理に特徴のある神事ダミー	
	雨乞い神事ダミー	
	火祭りダミー	
	民俗芸能が行われる神事ダミー	
	祇園祭ダミー	
	当番制による神事ダミー	
その他の神事ダミー		
神社規模	無格社(規模小)ダミー	1:無格社 0:無格社以外 b.
土地利用	市街化調整区域内立地ダミー	1:該当 0:該当しない c.(19)
	都市計画区域内白地地域内立地ダミー	
	都市計画区域外立地ダミー	
人口	神社周辺人口(半径500m)	2010年の人口 d.(10)
	神社周辺人口変化率(半径500m)	1995~2010年の人口変化率 d.(95~10)
	神社周辺老年人口割合(半径500m)	2015年 <sup>注18)</sup> d.(15)
交通	徒歩圏内(800m)に駅存在ダミー	1:駅存在 0:駅無し c.(10)
	徒歩圏内(800m)にバス停存在ダミー	1:バス停存在 0:バス停無し c.(19)

※出典: a. 茨城の神事<sup>注8)</sup>, b. 茨城県大百科事典<sup>注19)</sup>, c. 国土数値情報<sup>注20)</sup>, d. 国勢調査<sup>注21)</sup>

変数	標準化判別係数			
	消滅 ←	→ 継承		
神事の 種類	海・浜で行われる神事ダミー		0.214	
	御田植神事ダミー		0.249	
	競技を伴う神事ダミー		0.074	
	供え物や料理に特徴のある神事ダミー		0.213	
	雨乞い神事ダミー		-0.427**	
	火祭りダミー		0.433**	
	祇園祭ダミー		0.611**	
	民俗芸能が行われる神事ダミー		0.342	
	当番制による神事ダミー		-0.150	
その他の神事ダミー		0.368		
神社規模	無格社ダミー		-0.413**	
土地利用	市街化調整区域内立地ダミー		-0.617*	
	都市計画区域内白地地域内立地ダミー		-0.166	
	都市計画区域外立地ダミー		-0.435	
人口	神社周辺人口(半径500m)		-0.504*	
	神社周辺人口変化率(半径500m)		-0.376**	
	神社周辺老年人口割合(半径500m)		-0.090	
交通	徒歩圏内(800m)に駅存在ダミー		0.299*	
	徒歩圏内(800m)にバス停存在ダミー		0.454**	
n=145	* : P<0.1, ** : P<0.05, *** : P<0.01		現存群の重心	0.343
			消滅群の重心	-1.317
			相関比 η <sup>2</sup>	0.314
			判別率	79.31%

図-5 判別分析の結果

変化とともに神を祀るために「する祭り」から見物客へ「見せる祭り」へ変容していることを述べており、このような「見せる祭り」として影響を受けやすい神事が継承傾向にあることを示していると考えられる。

- 3) 神社の規模について、小規模な神社が消滅に有意な影響を与えていることが分かる。規模の小さい神社は神職が常駐していないか、あるいは一人の神職が複数の神社を管理していることが多い<sup>11)</sup>。神職が常駐していない神社に関しては、一般的に

氏子総代が神社の管理や神事の運営を担っているが、氏子総代の減少及び高齢化が課題として示されており<sup>注23)</sup>、これらが神事の消滅に影響を与えていることが考えられる。今後このような規模の小さい神社において、総代のみでなく、地域住民全体で支えていくことが神事の継承に求められると考える。

- 4) 土地利用に着目すると、市街化調整区域内で行われる神事ほど消滅割合が高いことが分かる。市街化調整区域における課題として、個別開発によるスプロールの問題が挙げられる。木村ら<sup>10)</sup>は、高度経済成長期以降、郊外の住宅団地の開発やスプロール型の住宅地化が進んだことによる住民層の多様化は、新旧住民のコミュニケーション不足や対立を引き起こし、地域基盤の衰退要因となっていることを指摘しており、このような背景が消滅へ影響を与えていると考えられる。
- 5) 人口については、4.(2)の結果と同様に人口減少と消滅の関係は見られなかった。むしろ、居住者の多い地域や人口が増加している地域が消滅に影響を与えている。これは、新規居住者の増加により継承意識の希薄化が進んだことが消滅要因の可能性として考えられる。
- 6) 交通については、駅・バス停の存在がどちらも継承に有意な影響を示している。公共交通が整備されていない神社は周辺が田畑に囲まれていたり、山頂付近に位置していることが考えられる。周辺住民以外の方も含めて、神事開催日に神社に来訪しにくいことで参加人数が減少していったことが消滅要因として考えられる。

## 6. おわりに

本研究では、30年前の神事の継承・消滅実態とその要因について俯瞰的視点から分析を行った。主な成果を以下に示す。

- 1) 神事の消滅と周辺地域の人口減少との関係はみられなかった。人口減少が消滅に対する要因となっていない結果を踏まえると、今後人口減少の進展が想定される中で、人口以外の異なる要因を探し、対処していく必要性があるといえる。
- 2) 神事の継承に対して神事の種類による影響を明らかにした。特に、雨乞い神事といった日程が不定期である神事は消滅要因へ強く影響し、火を扱う神事や祇園祭など注目を集める神事は継承されやすいことが明らかとなった。
- 3) 規模の小さい神社で行われる神事は消滅割合が高いことが示された。規模の小さい神社では、神職が常

駐していないことが多く、こういった神社に対して神社の管理及び神事の運営を地域住民全体で担っていく必要があるといえる。

- 4) 神事の継承・消滅には、土地利用や交通といった地域特性が影響していることを示した。特に、市街化調整区域内においては消滅割合が高いことが明らかとなった。スプロール型の住宅開発が進んだことで、住民層が多様化し、コミュニティの希薄化が生じたことが要因として考えられる。

神事には多種多様なものが存在するが、大局的に見ると継承・消滅要因に特徴があることが本研究を通して明らかとなった。今後、保存・活用を考えていくなかで、神事や地域の特性を考慮したうえで政策を進めていくことが効果的であるといえるだろう。

今後の課題として、本研究では住民の神事に対する想いや担い手の特徴といった情報の把握には至っていない。このような情報は継承・消滅要因に影響を与えると考えられ、今後はこれらの影響も踏まえて検討することが期待される。

**謝辞：**本論文の作成にあたり、茨城県神社庁の林竜司氏及び茨城新聞社の大平賢二氏、そして金村別雷神社の所雅彦氏を始めヒアリングにご協力いただいた皆様には有益な情報を提供して頂いた。加えて、JSPS 科学研究費(20H02265)の助成を得た。記して謝意を申し上げる。

## NOTES

- 注1) 無形民俗文化財の伝統行事, 20 県で 60 件休廃止, 日本経済新聞, 2017 年 1 月 3 日朝刊
- 注2) 神社本庁, <https://www.jinjahoncho.or.jp/>, 最終閲覧 2022/02/04
- 注3) コロナで失われる可能性が高い日本文化, 一般社団法人マツリズム, <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/00000015.000023777.html>, 最終閲覧 2022/02/04
- 注4) 例えば, 三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 報告レポート, 地域の祭りの社会課題解決能力に着目した地方創生の在り方, [https://www.murc.jp/report/rc/column/search\\_now/sn180501/](https://www.murc.jp/report/rc/column/search_now/sn180501/), 最終閲覧 2022/02/04
- 注5) 文化財保護法の一部を改正する法律が参議院本会議で全会一致で可決, 文部科学省, [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/activity/detail/2021/20210416.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/activity/detail/2021/20210416.html), 最終閲覧 2022/02/14
- 注6) 「祭り」支援に 65 億円計上 コロナで中止相次ぎ, 文化庁, 2021 年 05 年 31 日日経新聞夕刊
- 注7) 「文化財保存活用地域計画」について, 文化庁, [https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/bunkazai\\_hozon/index.html](https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkazai/bunkazai_hozon/index.html), 最終閲覧 2021/12/07
- 注8) 茨城新聞社, 茨城県神社庁編, 茨城の神事, 1989
- 注9) 茨城県生活福祉部総合県民室編集, いばらきの祭りと民俗芸能, 1983
- 注10) 茨城県教育委員会, 茨城県教育庁文化課編集, 茨城県の祭り・行事-茨城県祭り・行事調査報告書-, 2010
- 注11) 茨城県神社庁が 1986 年に県内の 2464 社に神事に関

するアンケート調査を行い、回答のあった中で類似または重複するような神事を省いた神事を対象としている。著書内には、1988年に各神社の宮司が執筆した内容が示されている。(2021年10月25日、茨城県神社庁職員へのインタビュー調査より。)

- 注12)「特色ある祭り」には著書内の分類に当てはまらない茨城県特有の神事が掲載されている。
- 注13)2021年7月12日時点で、HPの更新有無に限らず記載のある神事を継承と判断する。また、COVID-19の影響で中止しているものについてもCOVID-19流行以前まで継承されているとし、継承と判断する。
- 注14)茨城県神社庁、<http://www.ibaraki-jinjacho.jp/>,最終閲覧 2022/02/04
- 注15)CSVアドレスマッチングサービス,<https://geocode.csis.u-tokyo.ac.jp/geocode-cgi/geocode.cgi?action=start>,最終閲覧 2022/02/04
- 注16)Google マップ, <https://www.google.co.jp/maps/>, 最終閲覧 2022/02/14
- 注17)本研究では、近代社格制度から神社の規模を把握する。規模が大きい順に、官社、諸社、無格社となる。具体例として茨城県内では、官社が鹿島神宮と大洗磯前神社、諸社が静神社など、無格社は鹿島神社(鹿島神宮の末社)などが挙げられる。
- 注18)4次メッシュにおいて年齢別人口割合データが整備されている2015年で代用した。
- 注19)茨城県大百科事典,茨城新聞社編集,1981
- 注20)国土交通省,国土数値情報ダウンロード,<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>,最終閲覧 2022/02/04
- 注21)総務省統計局,国勢調査,<https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/index.html>,最終閲覧 2022/02/04
- 注22)小学館,小松和彦編,祭りとイベント,1997
- 注23)埼玉県神社庁教化委員会,埼玉県神社庁設立七十周年記念「神職実態調査」報告書,2019

## REFERENCES

- 1) 植田今日子:なぜ大災害の非常事態下で祭礼は遂行されるのか,東日本大震災後の「相馬野馬追」と中越地震後の「牛の角突き」,社会学年報,Vol.42,pp.43-60,2013 [Ueda, K.:Why Do Sufferers of Great Earthquake Conduct the Traditional Events?:Lessons from Somanomaio after Great East Japan Earthquake and Tsunotsuki-Bullfighting after Niigata Chuetsu Earthquake, The Annual Reports of the Tohoku Sociological Society, Vol.42, pp.43-60,2013]
- 2) 石川菜央:宇和島地方における闘牛の存続要因—伝統行事の担い手に注目して—,地理学評論 Vol.77,No.14, pp.957-976,2004[Ishikawa, N.:Factors in the Continuation of Bullfighting in Uwajima District, Southwestern Japan, with Special Attention to the Actors Involved in a Traditional Event, Geographical Review of Japan Vol.77, No.14, pp.957-976,2004]
- 3) 卯田卓矢,阿部依子:過疎地域における祭礼の存続形態—佐久市望月地域の榊祭りを事例として—,地域研究年報 Vol.37,pp.33-59,2015[Uda, T. and Abe, Y.:Sustainable forms of Local Festival in a Depopulated Area: A Case of Sakaki Festival, Mochizuki District, Saku City, Annals of Human and Regional Geography, Vol.37, pp.33-59,2015]
- 4) 熊澤栄二,堀内美緒,四方葵,佐々木理沙:奥能登珠洲における地域づくりに向けた祭礼の衰退原因の分析,ランドスケープ研究 Vol.74, No.5, p.667-672, 2011[Kumazama, E., Horiuchi, M. and Yomo, A. and Sasaki, R.: Analysis of the Decline of Kiriko-festival towards regional Vitalization in Okunoto-Suzu, Journal of The Japanese Institute of Landscape Architecture, Vol.74, No.5, p.667-672, 2011]
- 5) 井口暁:過疎地域における祭りの終了と再生のメカニズム—三重県神川町の「桜祭り」から「桜覧会」への転換に注目して—,京都社会学年報 Vol.27, pp.19-44, 2019 [Iguuchi, S.: Transformation of the Festival and Community Conflict, Kyoto journal of sociology, Vol.27, pp.19-44, 2019]
- 6) 森田 椋也, 後藤春彦, 山崎義人:地域における非居住者による講を通じた活動展開に関する研究—奈良県吉野郡天川村の天川大辯財天社を事例として—,日本建築学会計画系論文集第84巻第761号, pp.1589-1599, 2019, [Morita, R. and Goto, H. and Yamazaki, Y.: Development Of Activities By Nonresidents Through “KO”— Case of Tenkawa Daibenzaiten-sha Shrine in Tenkawa-village, Yoshino-gun, Nara-prefecture —, Journal of Architecture and Planning, Vol.84, No.761, pp.1589-1599, 2019]
- 7) 杉山岳弘, 戸田剛, 太田好治:浜松市における無形民俗文化財「祭り・神事・行事」のデータベース化と継承状況の調査,第23回公開シンポジウム「人文科学データベース」発表論文集2017[Sugiyama, T. and Toda, T. and Ohta, Y.: A Database of Intangible Folk Cultural Properties "Festivals, Shrines and Events" in Hamamatsu City and a Survey of Succession Situation, Humanities and databases 23, 2017]
- 8) 杉山岳弘:無形民俗文化財のデータベース化のための情報の体系的記述に関する検討—浜松市における—,第25回公開シンポジウム「人文科学データベース」発表論文集2019[Sugiyama, T.: A Study on Systematic Description of Information for Database of Intangible Folk Cultural Properties -In Hamamatsu City, Humanities and databases 25, 2019]
- 9) 板井正斉:三重県における神社周辺人口の将来増減分析—「500mメッシュ別将来推計人口」を用いて—,皇學館大学紀要, Vol.03, No.59, pp.1-20, 2021, [Itai, M.: Analysis of Future Changes in the Population Around Shrines in Mie Prefecture: an Estimation of Population by 500 m Mesh, Bulletin of Kogakkan University, Vol.03, No.59, pp.1-20, 2021]
- 10) 木村純子, 浜田雄介, 迫俊道:混住地域における伝統芸能の継承—広島県の神楽団の事例から—, Leisure & Recreation, 34巻1号 p.38-46, 2009, [Kimura, J. and Hamada, Y. and Toshimichi, S.: Inheritance of traditional performing arts in mixed areas, -From the case of the Kaguradan in Hiroshima Prefecture-, Leisure & Recreation, Vol.34, No.1, pp.38-46, 2009]
- 11) 高田知紀, 藪内佳順, 佐藤祐太:神社空間を核とした防災コミュニティの形成プロセスに関する一考察,土木学会論文集 F6, Vol.76, No.2, pp.165-174, 2020, [Takada, T. and Yabuuchi, Y. and Sato, Y.: A Study On The Formation Process of Community For Disaster Risk Reduction With A Shrine As Core, Journal of Japan Society of Civil Engineers, Ser. F6, Vol.76, No.2, pp.165-174, 2020]

(Received )

(Accepted )